

市指定

所在地：宇土

もくぞうあみだによらいざぞう

木造阿弥陀如来坐像

来迎印を結ぶ阿弥陀像で、頭部は大ぶりの肉髻に、細かい格子状の螺髪を刻む。目は伏し目がちに彫られ、重厚で神秘的な面持ちとなっている。膝部の衣文の表現が硬く感じられるものの、全体に量感豊かで頸の三道、肩部の衣文の彫りも深く、平安時代の仏像表現が成されている。

材質はヒノキ材で、体幹を前後に割矧ぎ、両肩を寄せ、膝から先を別材で寄せている。

当像は昭和30年に、京都府綾部市の真言宗興隆寺より弘誓寺に譲られたものである。

像高89cm。

